

保育における「水を素材とした戸外遊び」の実態 —岡山市内の保育・幼児教育施設の保育者を対象としたアンケート調査から—

An Examination of the Use of Outdoor Water Activities in Early Childhood Education : Survey Results from Childhood Education Facilities in Okayama City

(2023年3月31日受理)

齊藤佳子
Saito Yoshiko

Key words : 水, 水遊び, 保育・幼児教育, 園庭, コロナ

要 旨

岡山市内の保育・幼児教育施設の保育者を対象としたアンケート調査により、2021年度の戸外での水遊び・プール活動の実施状況、水遊びの内容など、水を素材とした遊びの実態について検討した。最も多い水遊びは、0・1歳児がジョウロ遊び、2歳児から5歳児は色水遊びであった。2歳児から5歳児に多い遊びは、シャボン玉、色水遊び、水鉄砲、泡遊び、泥遊びと同様の傾向を示している。また自由記述から抽出された「水遊び」とする遊びは多種多様で、その捉え方は広範であった。最も多いのが寒天遊びで、次いで片栗粉遊びの感触遊びが多数見られた。魚すくい、ボディペイント、水風船、樋遊びなど、設問の選択肢の遊びも含めると45種類もの水遊びが挙げられる。プール遊びの中止は過半数であるが、水遊びは約6割がコロナ対策を講じながら例年通り実施していた。密集・密接しないようグループに分ける、玩具は消毒の徹底をし、清潔を保つなどの配慮や工夫が行われていたことが明らかになった。

1. はじめに

水は日常生活においてお茶、手洗い、トイレ、植物の水やり等、さまざまな場面で毎日接している物質であり、身近で親しみやすく子どもが容易に触れることのできる自然的環境の一つである。しかも、子どもにとっては、大変興味をそそられる遊びの素材である。ここでいう遊びの素材とは、『現代保育用語辞典』(1997)によれば、「子どもの身の回りにおいて、子ども自身で操作することのできるもの」¹⁾をさす。保育の場では、水を素材とした遊びとして、夏はプール遊び、園庭での水遊び、色水遊び、泥遊び、シャボン玉遊びなど、冬は氷遊びなどの戸外遊びが実施される。このように水を素材とした遊びは色水遊び、泥遊びなど他の素材と組み合わせた遊びが多い。また、これらの遊びは、加藤(2013)によるシャボン玉遊びや色水遊びの時の子どもの発言についての調

査から、いずれも幼児の科学的萌芽を育成する遊びとして適していることが明らかになっている²⁾。

一方で、園庭がない園が増加し、子どもの戸外遊びの時間が減少していることや、業務の増加や人員不足により、園外保育・戸外保育などの自然とのかかわりに時間がとれないという現状、熱中症や感染症対策から水遊び、泥遊びなどを中止している園の増加が指摘されている³⁾。特に一昨年からは新型コロナウイルス感染症予防対策のため、プール遊びを始め水遊びが中止となった園があると思われる。

秋田ら(2019)⁴⁾による先行研究のレビューでは、水遊びに関する研究は少ないことが指摘されている。水遊びの研究としては、プール遊びに関する研究⁵⁾、もしくは泥遊びや色水遊びなど他の素材と合わせた遊びに関する保育実践・事例研究^{6) 7)}が中心となっている。

幼児期の「水遊び」については、『現代幼児教育小辞

典』(1986)⁸⁾では「水を媒介として展開される遊びの総称」と明記し、次のように掲載している。「雨降り後の水たまりでの遊び、水まき、シャボン玉遊び、舟遊び、水鉄砲遊び、プールでの水泳遊びなど、さまざまな水遊びがある。水という素材の性質上、季節や場所に制限を受けるが他の素材に比べ親しみやすく感覚的に心地よいので、幼児の大好きな遊びの一つとなっている。水遊びによるさまざまな感覚的経験は、知覚や情緒の発達に寄与するだけでなく幼児なりの自由な実験や探索を通じて、自然科学的認識の芽生えを培うことにもなる。また、プールなどでの活発な水遊びも、最近ではビニール製の簡易なものが開発され夏の季節的な遊びとして取り上げられることが多くなっている。」また『幼稚園辞典』(1994)⁹⁾では、「水遊び」として「水になれ親しむ活動」と「身体がぬれるような活動」に大別して記述されている。前者として砂場での水遊びと色水遊びが、後者として園庭の水まき、水でっぽう、プール内での水遊びについて紹介されている。さらに1971年発行『保育小辞典』¹⁰⁾では、「水遊びの主眼は泳げるようにすることではない。水をこわがらず、かといって水に対して全く無防備でないようその基礎になる認識を育てておくことである。ただし、子どもの側からは理屈を抜きにした楽しい遊びでなければならない」と記載されている。

そこで本研究では、岡山市内の保育・幼児教育施設の保育者を対象としたアンケート調査により水を素材とした戸外遊びに関する実施状況を明らかにすることを目的としている。研究成果は、保育者養成課程学生に水遊びをする上での有効な資料として提示することを意図している。

2. 研究の方法

岡山市内の幼稚園50施設(公立:44施設,私立:6施設)、認定こども園52施設(公立:17施設,私立:35施設)、認可保育園104施設(公立:37施設,私立:67施設)、地域型保育事業37施設(私立小規模保育事業所:28施設,私立企業所内保育事業所:9施設)計241施設の保育者を対象として郵送によるアンケート調査を行い、結果を分析する。調査は、2022年1月中旬から2月上旬に行った。調査票配布数は幼稚園4年保育1施設4票・3年保育19施設57票・

2年保育25施設50票、認定こども園52施設318票、認可保育園104施設630票、認可保育園104施設630票、地域型保育事業37施設108票の合計1,167票である。

調査項目は回答者の属性(性別,年齢,役職,経験年数,該当する保育・幼児教育施設,園庭(屋外遊技場)の環境,水遊びの状況,水遊びの内容,水遊びに対する保育者の意識,2021年度の水遊び・プール活動の実施状況を設定した。回答形式は選択肢形式と自由記述形式を併用している。なお本調査を行うにあたり倫理的配慮として中国学園大学子ども学部倫理委員会の承認を受けた。また調査票の送付時に書面にて研究目的,公表時の匿名性の確保について説明し,資料収集及び成果公表などについて同意を得た。

3. 結果と考察

(1) 回収率

151施設(全体の62.7%)から回答があり,有効回収数626票,回収率53.6%であった。

(2) 対象者の属性

性別の内訳は男性19名,女性607名である。年齢は20代216名,30代182名,40代154名,50代61名,60代以上12名,無回答1名である。役職については,園長3名,副園長6名,主任121人,クラス担任484人,その他11名,無回答1名であり,主任はほぼ担任を兼務している。経験年数は,1~9年271名,10~19年208名,20~29年111名,30年以上31名,無回答5名で,経験年数20年未満者が全体の76.4%を占める。また,担当年齢クラスについては,0歳児72名,1歳児74名,2歳児92名,3歳児100名,4歳児109名,5歳児116名,複式・混合クラス61名であった。

所属施設は,市立幼稚園79名,私立幼稚園15名,市立認定こども園56名,私立認定こども園102名,市立認可保育園132名,私立認可保育園201名,地域型保育事業(私立小規模保育事業所)28名,地域型保育事業(事業所内保育事業所)13名であった。

(3) 園庭の物的環境

園庭環境について,園庭,砂場,水遊び場,花壇,菜園,固定遊具,飼育小屋の設置・所有状況を尋ねた。調

査票の結果を年齢クラスにより分類し表1に示す。3歳以上児の在籍施設では園庭があり、砂場の設置・所有率は90%台と高く、0歳児を除く1～5歳児では95%前後の高比率である。しかし、水遊び場の設置・所有率は3歳児17.0%，4歳児25.7%，5歳児23.9%で各年齢3割以下の回答であった。「足洗い場はある」、「夏季限定で設置する」という回答も見られた。また、身近な植物の栽培では、鉢植えやプランター栽培、花壇や菜園で植物の水やりの経験や活動をするが、花壇の設置・所有率は3歳以上児在籍施設では、3歳児74.0%，4歳児89.9%，5歳児80.3%と高比率にある。菜園については、花壇に比較し低比率ではあるものの、設置・所有率は全ての年齢で50%を超えており、4・5歳児では70%前後の数値となっている。栽培の一連の体験のできる花壇や菜園が園にあることは、子どもにとって貴重な経験となる。

表1 園庭に設置・所有しているもの

	0歳児	1歳児	2歳児	3歳児	4歳児	5歳児	その他	合計
対象者(人)	72	74	92	100	109	117	61	625
園庭	70 (97.2%)	73 (98.6%)	90 (97.8%)	100 (100.0%)	109 (100.0%)	117 (100.0%)	61 (100.0%)	620 (99.2%)
砂場	66 (91.7%)	69 (93.2%)	90 (97.8%)	94 (94.0%)	104 (95.4%)	111 (94.9%)	61 (100.0%)	595 (95.2%)
水遊び場	14 (19.4%)	22 (29.7%)	20 (21.7%)	17 (17.0%)	28 (25.7%)	28 (23.9%)	23 (37.7%)	152 (24.3%)
花壇	48 (66.7%)	52 (70.3%)	69 (75.0%)	74 (74.0%)	98 (89.9%)	94 (80.3%)	60 (98.4%)	495 (79.2%)
菜園	37 (51.4%)	42 (56.8%)	49 (53.3%)	50 (50.0%)	74 (67.9%)	83 (70.9%)	40 (65.6%)	375 (60.0%)
固定遊具	61 (84.7%)	63 (85.1%)	82 (89.1%)	93 (93.0%)	105 (96.3%)	112 (95.7%)	61 (100.0%)	577 (92.3%)
飼育小屋	8 (11.1%)	9 (12.2%)	8 (8.7%)	8 (8.0%)	32 (29.4%)	39 (33.3%)	14 (23.0%)	118 (18.9%)
その他	12 (16.7%)	10 (13.5%)	16 (17.4%)	1 (1.0%)	7 (6.4%)	7 (6.0%)	0 (0.0%)	53 (8.5%)

飼育小屋の設置・所有では、4歳児32件（29.4%）、5歳児39件（33.3%）で、0～3歳児は概ね10%前後となっている。これらを比較すると約20.0%の幅があった。また、飼育小屋の設置・所有率について、本稿では園種の別・公私立の別による集計結果を示していないが、公立幼稚園の設置・所有率が高い傾向にあった。さらに、飼育している動物はウサギが多く59件、次いでカメ14件、とり（インコ・チャボなど）13件であった。飼育小屋はあっても「現在は飼っていない」の回答が28件あった。保育施設における動物飼育について「飼育を決定するもの（飼育できない理由）」「飼育上困ることや問題となること」を調査した先行研究のレビューでは、共通する項目として「休日の世話」「設備の不備」「衛生管理の問題」「子

どものアレルギー」「繁殖計画」「騒音（近隣の迷惑）」「教師の負担」が挙げられている¹¹⁾。本調査では、飼育できない理由については尋ねていないが、同様の理由や問題点が動物飼育の継続を困難にしていると推察される。

園庭の物理環境のあり方については、文部科学省「幼稚園施設整備指針」¹²⁾に策定されており、設置者に対して、本指針に十分配慮するよう求めている。また本指針は、1993年に作成・公表され、その後、幼稚園施設を取り巻く状況の変化等を踏まえ、数次にわたる見直しが行われている。最新の指針は、2022年6月に改訂・公表された。本指針では、幼稚園における「教育を進める上で必要な施設機能を確保するために、計画及び設計における留意事項を示す」ことを目的に、詳細な事項でガイドラインを示している。

指針の第4章は「園庭計画」となっており、「第4 砂遊び場、水遊び場その他の屋外教育施設」として、砂遊び場、水遊び場については以下の通り、記載されている。

1 砂遊び場

- (1) 安全面及び衛生面における維持管理に十分留意しつつ、適当な面積、形状、砂質等のものを確保することが重要である。
- (2) 日当たりが良く安全かつ効果的に利用できる位置に計画することが重要である。

2 水遊び場

- (1) 水質管理ができるプール等の水遊び場を計画することが望ましい。また、水質管理や利用形態に十分留意しつつ、幼児が楽しく遊べる小川や池、可動式の水遊び場を計画することも有効である。
- (2) 日当たりが良く、安全かつ衛生的に管理できる位置に計画することが重要である。また、必要に応じ、日除けのための設備を設置することが望ましい。

3 その他の屋外教育施設

(省略)

「3 その他の屋外教育施設」について紙面の関係で全文を示すことはできないが、ここでは、動植物の飼育、栽培のための施設、ビオトープ、築山、トンネルについても触れられている。

今後、幼児教育・保育施設の園種を問わず、園における砂遊び場、水遊び場の意義は、ますます重要になってくると考えられるが、水遊び場については、本調査における年齢別の設置・所有率の集計結果で見ると10～20%台で低い傾向にある。

(4) 年齢クラス別の水遊びの状況

1) 水遊びを行ったか

水遊びについて「行ったか」「行っていない」の2選択肢より回答を求めた。年齢クラス別の結果が表2である。4・5歳児の水遊び実施率は100%であった。0歳児は6件(8.3%)、3歳児は4件(4.0%)が行っていないと回答している。「行っていない」とする回答は、合わせても14件(2.2%)と全体に占める比率からすると数値が小さく、新型コロナウイルス流行下にあっても、ほとんどの施設で水遊びが実施されたと言える。

表2 水遊びの実施状況

	0歳児	1歳児	2歳児	3歳児	4歳児	5歳児	その他	合計
対象者(人)	72	74	92	100	109	116	61	624
行った	66 (91.7%)	73 (98.6%)	91 (98.9%)	96 (96.0%)	109 (100.0%)	116 (100.0%)	59 (96.7%)	610 (97.8%)
行っていない	6 (8.3%)	1 (1.4%)	1 (1.1%)	4 (4.0%)	0 (0%)	0 (0%)	2 (3.3%)	14 (2.2%)

表3 水遊びを行った月

	0歳児	1歳児	2歳児	3歳児	4歳児	5歳児	その他	合計
対象者(人)	72	75	92	100	109	116	61	625
4月	2 (2.8%)	2 (2.7%)	4 (4.3%)	1 (1%)	5 (4.6%)	6 (5.2%)	5 (8.2%)	25 (4.0%)
5月	2 (2.8%)	5 (6.7%)	10 (10.9%)	2 (2.0%)	7 (6.4%)	12 (10.3%)	7 (11.5%)	45 (7.2%)
6月	20 (27.8%)	30 (40%)	36 (39.1%)	48 (48.0%)	80 (73.4%)	88 (75.9%)	28 (45.9%)	330 (52.8%)
7月	65 (90.3%)	71 (94.7%)	90 (97.8%)	93 (93.0%)	109 (100.0%)	115 (99.1%)	57 (93.4%)	600 (96.0%)
8月	62 (86.1%)	72 (96.0%)	88 (95.7%)	87 (87.0%)	80 (73.4%)	78 (67.2%)	57 (93.4%)	524 (83.8%)
9月	16 (22.2%)	18 (24.0%)	26 (28.3%)	40 (40.0%)	17 (15.6%)	28 (24.1%)	15 (24.6%)	160 (25.6%)
10月	1 (1.4%)	2 (2.7%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	1 (0.9%)	5 (4.3%)	4 (6.6%)	13 (2.1%)
11月	1 (1.4%)	2 (2.7%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	1 (0.9%)	2 (1.7%)	1 (1.6%)	7 (1.1%)
12月	2 (2.8%)	2 (2.7%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	1 (0.9%)	2 (1.7%)	1 (1.6%)	8 (1.3%)
1月	1 (1.4%)	2 (2.7%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	1 (0.9%)	6 (5.2%)	1 (1.6%)	11 (1.8%)
その他	0 (0.0%)	0 (0.0%)	1 (1.1%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	1 (1.6%)	2 (0.3%)
無回答/ 非該当	1 (1.4%)	1 (1.3%)	1 (1.1%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	2 (3.3%)	5 (0.8%)

表4 最も水遊びを行った月

	0歳児	1歳児	2歳児	3歳児	4歳児	5歳児	その他	合計
対象者(人)	72	74	92	100	109	116	61	624
6月	1 (1.4%)	0 (0.0%)	1 (1.1%)	7 (7.0%)	10 (9.2%)	11 (9.5%)	1 (1.6%)	31 (5.0%)
7月	25 (34.7%)	37 (50.0%)	40 (43.5%)	59 (59.0%)	71 (65.1%)	74 (63.8%)	28 (45.9%)	334 (53.5%)
8月	39 (54.2%)	35 (47.3%)	51 (55.4%)	32 (32.0%)	27 (24.8%)	29 (25.0%)	29 (47.5%)	242 (38.8%)
無回答/ 非該当	7 (9.7%)	2 (2.7%)	0 (0.0%)	2 (2.0%)	1 (0.9%)	2 (1.7%)	3 (4.9%)	17 (2.7%)

表5 水遊びを行った場所

	0歳児	1歳児	2歳児	3歳児	4歳児	5歳児	その他	無回答	合計
対象者(人)	72	74	92	100	109	116	61	2	626
園庭	24 (3.8%)	38 (6.1%)	68 (10.9%)	68 (10.9%)	103 (16.5%)	112 (17.9%)	43 (6.9%)	0 (0.0%)	456 (72.8%)
テラス	49 (7.8%)	40 (6.4%)	35 (5.6%)	45 (7.2%)	20 (3.2%)	16 (2.6%)	25 (4.0%)	0 (0.0%)	230 (36.7%)
砂場	8 (1.3%)	15 (2.4%)	42 (6.7%)	43 (6.9%)	71 (11.3%)	78 (12.5%)	21 (3.4%)	0 (0.0%)	278 (44.4%)
園外の公園	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	1 (0.2%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	1 (0.2%)
その他	7 (1.1%)	8 (1.3%)	16 (2.6%)	12 (1.9%)	11 (1.8%)	20 (3.2%)	5 (0.8%)	0 (0.0%)	79 (12.6%)
無回答/ 非該当	2 (0.3%)	0 (0.0%)	1 (0.2%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	2 (0.3%)	2 (0.3%)	7 (1.1%)

表6 「その他」選択者の水遊びを行った場所

	0歳児	1歳児	2歳児	3歳児	4歳児	5歳児
中庭		中庭(2件)	芝生	芝生	小学校のプール(2件)	裏庭
室内		園庭は土ではない	プール(3件)	屋上(3件)	室内(熱中症アラートが出た為)	屋上(4件)
戸外テラス		園内の水遊び場	中庭	人工芝(2件)	他園のプール	小学校のプール(4件)
ベランダ		ベランダ(2件)	駐車場	小学校のプール(2件)	2Fバルコニー	プール(2件)
人工芝		人工芝	2階の広場	2Fバルコニー	屋上(2件)	他園のプール
スロープ		園舎前	雨の日にカッパを着て散歩した	ベランダ(3件)	プール(2件)	ホール
園舎前			屋上(3件)		組立て式プール(2件)	築山
					組立て式プール(3件)	

2) 水遊びを行った月

水遊びを行った月を全て選択する質問では、表3に示すように調査対象期間とした2021年4月から2022年1月において、0・1・4・5歳児クラスでは数値に差が見られるが、全ての月で水遊びを行っていた。中でも特に夏季の6～8月は実施率が高い。2・3歳児クラスでは10月～1月の秋季・冬季には水遊びを行っていない。

3) 最も水遊びを行った月

最も水遊びを行った月を回答する質問では、0・2歳児クラスは8月、1・3・4・5歳児クラスは7月という結果であった(表4)。水遊びは夏ならではの活動というイメージもあるが、暑さの中で、水の感触や心地よさを体験することができると思われる。

4) 水遊びを行った場所

水遊びを行った場所について、複数回答で尋ねた。そ

の結果を表5に示す。全体では多い順に「園庭」456件(72.8%),「砂場」278件(44.4%),「テラス」230件(36.7%)となった。これらの場所について年齢別に見ると、園庭や砂場では、年齢が高くなるのに比例して、数値も高くなる傾向にある。一方、テラスについては、0歳児クラスの数値が最も高く、年齢が高くなるのに反比例して数値が低くなる傾向にあることが読み取れる。0歳児クラスの夏の「戸外での水遊びでは、強い日差しを避けられるように、テントやパラソルを張ったり、木陰の下で快適に過ごせるように工夫する」¹³⁾ 必要があるが、テラスで行うことで、テントやパラソルと同様に強い日差し

表7 最も水遊びを行った場所

	0歳児	1歳児	2歳児	3歳児	4歳児	5歳児	その他	無回答	合計
対象者(人)	72	74	92	100	109	116	61	2	626
園庭	13 (2.1%)	30 (4.8%)	61 (9.7%)	78 (12.5%)	94 (15.0%)	95 (15.2%)	36 (5.8%)	1 (0.2%)	408 (65.2%)
テラス	47 (7.5%)	36 (5.8%)	24 (3.8%)	10 (1.6%)	6 (1.0%)	6 (1.0%)	16 (2.6%)	1 (0.2%)	146 (23.3%)
砂場	1 (0.2%)	1 (0.2%)	2 (0.3%)	4 (0.6%)	3 (0.5%)	3 (0.5%)	1 (0.2%)	0 (0.0%)	15 (2.4%)
園外の公園	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)
その他	5 (0.8%)	6 (1.0%)	4 (0.6%)	6 (1.0%)	6 (1.0%)	12 (2.0%)	6 (1.0%)	0 (0.0%)	45 (7.2%)
無回答/非該当	6 (1.0%)	1 (0.2%)	1 (0.2%)	2 (0.3%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	2 (0.3%)	0 (0.0%)	12 (2.0%)

表8 水遊びの内容

	0歳児	1歳児	2歳児	3歳児	4歳児	5歳児	合計
対象者(人)	70	74	91	100	109	116	560
泥遊び	12 (17.1%)	37 (50.0%)	66 (72.5%)	62 (62.0%)	92 (84.4%)	101 (87.1%)	370 (66.1%)
色水遊び	23 (32.9%)	46 (62.2%)	78 (85.7%)	82 (82.0%)	101 (92.7%)	106 (91.4%)	436 (77.9%)
シャボン玉	45 (64.3%)	46 (62.2%)	72 (79.1%)	78 (78.0%)	96 (88.1%)	105 (90.5%)	442 (78.9%)
泡遊び	22 (31.4%)	38 (51.4%)	66 (72.5%)	74 (74.0%)	95 (87.2%)	98 (84.5%)	393 (70.2%)
洗濯ごっこ	4 (5.7%)	22 (29.7%)	43 (47.3%)	37 (37.0%)	46 (42.2%)	46 (39.7%)	198 (35.4%)
園庭の水まき	10 (14.3%)	16 (21.6%)	28 (30.8%)	33 (33.0%)	46 (42.2%)	62 (53.4%)	195 (34.8%)
植物の水やり	11 (15.7%)	16 (21.6%)	47 (51.6%)	41 (41.0%)	65 (59.6%)	92 (79.3%)	272 (48.6%)
ホースで水をかける	31 (44.3%)	48 (64.9%)	66 (72.5%)	59 (59.0%)	71 (65.1%)	84 (72.4%)	359 (64.1%)
水鉄砲	25 (35.7%)	42 (56.8%)	62 (68.1%)	74 (74.0%)	95 (87.2%)	100 (86.2%)	398 (71.1%)
ジョウロ遊び	55 (78.6%)	62 (83.8%)	56 (61.5%)	56 (56.0%)	36 (33.0%)	38 (32.8%)	303 (54.1%)
バケツ遊び	51 (72.9%)	48 (64.9%)	45 (49.5%)	46 (46.0%)	27 (24.8%)	33 (28.4%)	250 (44.6%)
ペットボトル遊び	45 (64.3%)	56 (75.7%)	59 (64.8%)	55 (55.0%)	56 (51.4%)	58 (50.0%)	329 (58.8%)
水車	23 (32.9%)	32 (43.2%)	26 (28.6%)	27 (27.0%)	21 (19.3%)	27 (23.3%)	156 (27.9%)
魚つり	16 (22.9%)	34 (45.9%)	53 (58.2%)	68 (68.0%)	73 (67.0%)	71 (61.2%)	315 (56.3%)
舟遊び	5 (7.1%)	10 (13.5%)	12 (13.2%)	18 (18.0%)	23 (21.1%)	36 (31.0%)	104 (18.6%)
プール遊び	11 (15.7%)	13 (17.6%)	42 (46.2%)	12 (12.0%)	30 (27.5%)	39 (33.6%)	147 (26.3%)
氷遊び	47 (67.1%)	52 (70.3%)	65 (71.4%)	60 (60.0%)	50 (45.9%)	48 (41.4%)	322 (57.5%)
その他	16 (22.9%)	24 (32.4%)	7 (7.7%)	17 (17.0%)	14 (12.8%)	17 (14.7%)	95 (17.0%)

表9 「その他」選択者の「水遊び」の記述

水遊び	回答数
寒天遊び	32
片栗粉	17
魚すくい	16
ボディペイント	14
水風船	14
樋遊び	11
スプリングラー	7
絵の具	7
フィンガーペイント	6
タライ	5
染め紙・浸し染め	4
スライダー・ウォータースライダー	4
花湯・ゆず湯・足湯	4
シャワー	3
スーパーボールすくい	3
スポンジ	3
スライム	3
ワカメ	2
砂	2
的あて	2
ままごと	2
造花水やり	1
牛乳パック	1
ビニール袋	1
布団圧縮袋	1
ジェルボール	1
小麦粉	1
手おけ	1
水に浮く玩具	1
こんにやく遊び	1
魚のつかみ捕り	1
ヨーヨー	1
水路・お風呂づくり	1
じょうろ	1
ひしゃくやカップで水をすくう	1

を避けて水遊びを楽しめる環境を用意できると考える。また、質問に対して「その他」選択者の自由記述を見れば、表6に示すように、「屋上」が12件と最も多い。「プール」とする回答も2歳児クラス以上で多く得られたが、組み立て式、他園や小学校のプールが挙げられている。他園や小学校のプールの使用は、施設利用における連携・協力、交流の具体化、実質化としての取り組みであることが推察される。

5) 最も水遊びを行った場所

最も水遊びを行った場所を選択する質問の回答では、最も多いのが「園庭」406件(65.2%)、次いで「テラス」146件(23.3%)であったが、その差は大きい。「園庭」の回答について年齢クラス別に見ると、年齢が上がる

るに連れて、実施率も高くなっている。反対に、「テラス」について見ると、年齢が上がるに連れて、実施率が減少している。年少であるほど強い日差しを避けて快適に、なおかつより安全に水遊びを行うためにもテラスでの実施は適当だと考えられる。また年長であるほど、活発に、かつダイナミックに水遊びが楽しめるように園庭の環境構成を工夫していると思われる。回答の集計結果は、年齢に合った適切な物的環境の設定、環境構成が反映されていると考えられる。

6) 水遊びの内容

水遊びの内容について尋ねる質問では、水遊びの種類について、先行研究や保育者養成で使用される「保育内容・環境」の教科書を参考に整理し、選択肢として設定した。年齢別の集計結果を表8に示す。

全体で、多い順に5位までを挙げると「シャボン玉」442件(78.9%)、「色水遊び」436件(77.9%)、「水鉄砲」398件(71.1%)、「泡遊び」393件(70.2%)、「泥遊び」370件(66.1%)である。

次に年齢クラス別でも、多い順に5位までを挙げる。0歳児では、「ジョウロ遊び」55件(78.6%)、「バケツ遊び」51件(72.9%)、「氷遊び」47件(67.1%)、「ペットボトル遊び」45件(64.3%)、「シャボン玉」45件(64.3%)である。1歳児クラスでは、「ジョウロ遊び」62件(83.8%)、「ペットボトル遊び」56件(75.7%)、「氷遊び」52件(70.3%)、「ホースで水をかける」48件(64.9%)、「バケツ遊び」48件(64.9%)である。2歳児では、「色水遊び」78件(85.7%)、「シャボン玉」72件(79.1%)、「泥遊び」66件(72.5%)、「泡遊び」66件(72.5%)、「ホースで水をかける」66件(72.5%)である。3歳児では、「色水遊び」82件(82.0%)、「シャボン玉」78件(78.0%)、「泡遊び」74件(74.0%)、「水鉄砲」74件(74.0%)、「魚つり」68件(68.0%)である。4歳児では、「色水遊び」101件(92.7%)、「シャボン玉」96件(88.1%)、「泡遊び」95件(87.2%)、「水鉄砲」95件(87.2%)、「泥遊び」92件(84.4%)である。5歳児では、「色水遊び」106件(91.4%)、「シャボン玉」105件(90.5%)、「泥遊び」101件(87.1%)、「水鉄砲」100件(86.2%)、「泡遊び」98件(84.5%)である。

最も多い遊びは、0・1歳児クラスが「ジョウロ遊び」(約80%)であり、2歳児から5歳児は「色水遊び」(2・3

歳児80%、4・5歳児90%以上)となった。2歳児から5歳児クラスに多い遊びは同じような傾向を示している。

「泥遊び」について、泥は、個体である砂や土が、液体である水と混ぜ合わせて溶けることで存在する。砂や土は水を含むことで、さまざまな性質、つまり、さまざまな見た目や形、感触を生み出すことができる。砂と水とのかわりでは、「水は砂の中で有効に活用され得る要素をもっており、両者はまさに子どもの遊びの意識を芽生えさせるもの、さらには展開・発展させるものの代表¹⁴⁾とされている。子どもは砂や土、水で遊ぶことが大好きである。砂や土、水の感触は他にはない魅力がある。子どもたちは土と水を混ぜてその感触を十分に楽しみ、泥だんごや泥ケーキなどを作ることを楽しんでい

表10 2021年度のコロナ禍における戸外での水遊び・プール活動の実施状況

質問項目	
1	「保育現場のための新型コロナウイルス感染症対策ガイドブック」を参考にした。
2	新型コロナによる感染を考慮して水遊び(プール遊びを除く)を中止した。
3	新型コロナによる感染を考慮して、水遊び(プール遊びを除く)の回数を減らした。
4	新型コロナ対策を講じながら、水遊び(プール遊びを除く)は例年通り実施した。
5	子どもが密集・密接しないよう水遊び(プール遊びを除く)はグループに分けて行った。
6	新型コロナによる感染を考慮してプール遊びを中止した。
7	新型コロナによる感染を考慮して、プール遊びの回数を減らした。
8	新型コロナ対策を講じながら、プール遊びは例年通り実施した。
9	子どもが密集・密接しないようプール遊びはグループに分けて行った。
10	水遊び(プール遊びを除く)では玩具の共用をしないようにした。
11	水遊び(プール遊びを除く)では玩具の消毒を徹底し、清潔を保つようにした。
12	水遊び(プール遊びを除く)は子どもたちには大声を出すことはないよう指導した。
13	その他

	0歳児	1歳児	2歳児	3歳児	4歳児	5歳児	合計
対象者(人)	72	73	91	100	108	115	559
項目1	18 (3.2%)	23 (4.1%)	30 (5.4%)	26 (4.7%)	37 (6.6%)	48 (8.6%)	182 (32.6%)
項目2	2 (0.4%)	1 (0.2%)	0 (0.0%)	2 (0.4%)	4 (0.7%)	0 (0.0%)	9 (1.6%)
項目3	14 (2.5%)	13 (2.3%)	17 (3.0%)	20 (3.6%)	13 (2.3%)	27 (4.8%)	104 (18.6%)
項目4	39 (7.0%)	39 (7.0%)	60 (10.7%)	56 (10.0%)	68 (12.2%)	67 (12.0%)	329 (58.9%)
項目5	34 (6.1%)	32 (5.7%)	43 (7.7%)	40 (7.2%)	40 (7.2%)	43 (7.7%)	232 (41.5%)
項目6	23 (4.1%)	23 (4.1%)	31 (5.5%)	65 (11.6%)	73 (13.1%)	70 (12.5%)	285 (51.0%)
項目7	5 (0.9%)	1 (0.2%)	12 (2.1%)	6 (1.1%)	11 (2.0%)	22 (3.9%)	57 (10.2%)
項目8	6 (1.1%)	9 (1.6%)	29 (5.2%)	7 (1.3%)	12 (2.1%)	14 (2.5%)	77 (13.8%)
項目9	12 (2.1%)	10 (1.8%)	32 (5.7%)	5 (0.9%)	16 (2.9%)	25 (4.5%)	100 (17.9%)
項目10	11 (2.0%)	5 (0.9%)	5 (0.9%)	7 (1.3%)	3 (0.5%)	3 (0.5%)	34 (6.1%)
項目11	43 (7.7%)	41 (7.3%)	44 (7.9%)	44 (7.9%)	28 (5.0%)	32 (5.7%)	232 (41.5%)
項目12	3 (0.5%)	4 (0.7%)	9 (1.6%)	17 (3.0%)	29 (5.2%)	34 (6.1%)	96 (17.2%)
項目13	1 (0.2%)	2 (0.4%)	0 (0.0%)	1 (0.2%)	4 (0.7%)	6 (1.1%)	14 (2.5%)

る。また泥遊びは心を開放させ、感情を表出させてくれる¹⁵⁾。

また「その他」の質問項目の枝質問として自由記述欄を設けていたところ、表9に示す通り、35の多種多様な遊びが抽出された。最も多いのが寒天遊び（32件）で、次いで片栗粉遊び（17件）の感触遊びが多数見られた。魚すくい（16件）、ボディペイント（14件）、水風船（14件）、桶遊び（11件）という回答も得られた。これらの中には戸外遊びに該当しないであろうものも多数含まれている。花湯・足湯、ワカメ、造花水やり、布団圧縮袋なども挙げられている。

(5) 2021年度のコロナ禍における戸外での水遊び・プール活動の実施状況

質問項目は表10に示す計13項目となっており、設問に対して該当するものを回答してもらった。集計結果について項目毎に見ていく。

1) 項目1

『保育現場のための新型コロナウイルス感染症対応ガイドブック』は、2021年6月に第3版が全国保育園保健師看護師連絡会から発行されている。第1版は2020年5月に、同年10月には8月までの新型コロナウイルスに関する新たな情報を加え、第2版が再編集され発行されている。ガイドブックを参考にしたかを問う設問に対して、全体の約3割、182件（32.6%）が参考にしたと回答している。また年齢クラス別では、年長児クラスの方が年少児クラスより数値が高く、5歳児の数値が最も高い。この理由として、5歳児は、園での遊びと生活における保育者や友達との会話の際のマスク着用や給食時の黙食、仕切り、手洗いや手指消毒の徹底など、保育者はもとより子どもたちも、はじめての事態への対応を迫られ、水遊びやプール活動も例外でなかったことによるものと推察される。

2) 項目2

「新型コロナウイルス感染を考慮して水遊びを中止した」の設問に対して、該当するとした回答は9件（1.6%）と少ない。5歳児では皆無であった。この質問方法では、水遊びの内容の詳細までは明らかにできないが、ほとんどの園で水遊びは実施されたことが明らかになった。

3) 項目3

「新型コロナウイルス感染を考慮して水遊びの回数を

減らした」に対する回答は104件（18.6%）で全体の2割程度であった。

4) 項目4

「新型コロナ対策を講じながら、水遊びを例年通り実施した」に該当するとした回答は329件（58.9%）で全体の約6割であった。

5) 項目5

「子どもが密集・密接しないよう水遊びはグループに分けて行った」の設問に対しては、全体では232件（41.5%）の約4割が該当すると回答している。また年齢別では、2～5歳児は40～43件、比率は7%台で、0歳児34件（6.1%）、1歳児32件（5.7%）で数値に大きな差は見られない。

6) 項目6

「新型コロナによる感染症を考慮してプール遊びを中止した」の設問については、285件（51.0%）が該当すると回答しており過半数を占める。つまり、プールの実施については、「行った施設」と「中止した施設」が約半々であった。

7) 項目7

「新型コロナによる感染を考慮してプール遊びの回数を減らした」の設問に対して該当するとの回答は、57件（10.2%）で全体の約1割であった。

8) 項目8

「新型コロナ対策を講じながら、水遊びを例年通り実施した」の設問に対しては、全体では77件（13.8%）が該当すると回答している。年齢別で見ると、2歳児は他の年齢児に比較し、数値が高い。

9) 項目9

「子どもが密集・密接しないようプール遊びはグループに分けて行った」の設問に対して該当するとの回答は、全体では100件（17.9%）であった。2・5歳児クラスは他の年齢児クラスに比較し、数値が高い。

10) 項目10

「水遊び（プール遊びを除く）では玩具の共用をしないようにした」に対する回答は、全体でも34件（6.1%）と少数・低比率であるが、0歳児は11件（2.0%）で最も数値が高い。この理由として、0歳児は生理的行動としてのものを口にに入れる、なめる、吸う、噛むといった行動をするため、玩具の共用を減らすことで感染を予防する

対策がとられたことによると考えられる。

11) 項目11

「水遊び(プール遊びを除く)では玩具の消毒を徹底し、清潔を保つようにした」の設問に対して該当するとの回答は、232件(41.5%)と約4割であった。0~3歳の年少児クラスにおいては、回答数41~44件(7.3~7.9%)の約7%台で、ほぼ同数である。同様に4・5歳の年長児クラスにおいても、それぞれ28件(5.0%)・32件(5.7%)の約5%台で、ほぼ同数であった。年少児と年長児の比較では、約2%の僅差ではあるが年少児の方が数値は高い。

12) 項目12

「水遊び(プール遊びを除く)は子どもたちには大声を出すことはないよう指導した」の設問に対して該当するとの回答は、0・1歳児では、それぞれ3件、4件と回答数は少なく、全体の1%未満であった。2歳児でも9件(1.6%)と1%台である。3歳児では17件(3.0%)、4歳児では29件(5.2%)、5歳児では34件(6.1%)と年齢が高くなるにつれて数値は高くなっている。この理由として、子どもの言葉の発達や、約束や決まりごとを理解し、守ることができるという精神的な発達に合わせた保育者の指導とも関係していると思われる。

13) 項目13

「その他」の回答は14件(2.5%)であった。また、その内2件でコメントが得られた。「開始前後の手洗い・消毒の徹底」、「1人でもできることを水の中で行えるようにした。例)もぐる、かけっこ、輪くぐりなど」と記述されていた。

以上、13項目の結果について述べた。新型コロナウイルス対策では、密集・密接しないようグループに分ける(項目9)、玩具の消毒の徹底(項目11)などの配慮や工夫が行われたことが明らかになった。

4. お わ り に

コロナ禍における戸外での「水を素材とした遊び」の実態をテーマに、実施状況や水遊びの種類について述べてきた。戸外としたが、本研究でいう戸外とは、水遊びを行った場所を問う調査結果からも、園庭と捉えることができる。園庭では多様な遊びが展開されるが、水を介

して、土、砂、植物、太陽の光などと触れ合い、その感触や形状などを五感で感じ取り、それらに親しみ、興味や関心をもってかかわることができる。

本調査では、水遊びについて、以下の点が明らかになった。最も多い遊びは、0・1歳児クラスが「ジョウロ遊び」であり、2歳児から5歳児クラスは「色水遊び」である。2歳児から5歳児に多い遊びは「シャボン玉」「色水遊び」「水鉄砲」「泡遊び」「泥遊び」で同様の傾向を示している。また、自由記述から「水遊び」とする遊びは多種多様で、その捉え方は広範である。設問の選択肢の遊びも含めると、45種類もの遊びが挙げられる。さらに、プール遊びの中止は過半数であるが、水遊びは約6割がコロナ対策を講じながら例年通り実施していた。密集・密接しないようグループに分ける、玩具は消毒の徹底をし、清潔を保つなどの配慮や工夫が行われた。

コロナ禍にあつて、以前よりも感染症対策を行わなければならないと、園や保育者の負担感が増していることは想像に難くない。しかし保育現場では配慮や工夫を行いながら「水を素材とした遊び」を実施しており、子どもの多様な経験や体験を保障するようにしていると考えられる。

今回のような郵送調査法では水遊びに無関心な施設ほど協力的でないことが予測されるため、調査結果は保育現場の実際と多少ずれていることが推察されるが、2021年度の岡山市内の保育・幼児教育施設の水を素材とした遊びの実態について概ね明らかにすることができたと考ええる。しかしながら本調査では園の基礎情報として、園種、公私立、在籍園児数や園庭面積も尋ねていたが、集計では在園児年齢別に限定してしまい、集計や分析に生かすことができなかった。課題として、園種別による集計やその結果を分析・考察することが求められる。今後は、本報告で記述できなかった水遊びに対する「保育者の意識」や「自由記述」、及び「園長・施設長の自由記述」について検証していきたい。

本稿は、令和3年度中・四国保育士養成協議会教職員研究費助成報告「保育・幼児教育施設における保育の自然環境としての『水を素材とした戸外遊び』の実態」に加筆修正したものである。

本研究は、令和3年度中・四国保育士養成協議会教職員研究費の助成を受けて行った。調査にあたりご協力いただいた保育者の方々に深く感謝を申し上げます。

引用文献

- 1) 岡田正章, 千羽喜代子他. 現代保育用語辞典. フレーベル館, 1997.
- 2) 加藤尚裕. 5歳児の遊びに見られる科学的萌芽-砂場遊び, シャボン玉遊び, 色水遊び, 泥だんごづくりの事例を通して. 国際経営・文化研究 (淑徳大学). 2013, Vol. 18, No. 1, 17-28.
- 3) 小櫃智子. 実践例から学びを深める保育内容・領域環境指導法. わかば社, 2021, 61.
- 4) 秋田喜代美, 辻谷真知子, 石田佳織, 宮田まり子, 宮本雄太. 園庭に関する研究の展望. 東京大学大学院教育学研究紀要58. 2019, 495-533.
- 5) 早川宏子. 保育内容の研究「水遊び」. 商學論篇 中央大学商学研究会. 1981, 22 (1~3), 545-567.
- 6) 斉藤典子. 遊びの世界 (3) 子どもと水遊び. 子どもと発育発達. 日本発育発達学会. 2009, Vol. 7, No. 3, 188-190.
- 7) 水野恭子. 遊びの世界 (34) 3歳児の水遊びの展開. 子どもと発育発達. 日本発育発達学会. 2021, Vol. 15, No. 2, 156-158.
- 8) 上野辰美, 竹内通夫. 現代幼児教育小辞典. 風媒社, 1986, 199.
- 9) 幼少年教育研究所. 幼稚園辞典. 鈴木出版株式会社, 1994, 152-153.
- 10) 碓井 隆次, 待井 和江. 保育小辞典. ミネルヴァ書房, 1971, 99.
- 11) 山下久美, 首藤敏元. 幼稚園・保育園の動物飼育状況と飼育体験効果に関する研究展望—子どものムシとの関わりに関する研究に注目して. 埼玉大学教育学部附属教育実践総合センター紀要4. 2005, 177-188.
- 12) 文部科学省 https://www.mext.go.jp/content/20220624-mxt_kouhou01-000023406_1.pdf (2023. 3. 22 閲覧)
- 13) 谷田貝公昭, 大澤力. 実践 保育シリーズ3 環境. 一藝社, 2015, 69.
- 14) 榎沢良彦, 入江礼子. シードブック 保育内容環境 [第3版] 建帛社, 2018, 97.
- 15) 秋田喜代美, 三宅茂夫. シリーズ 知のゆりかご 子ども姿からはじめる領域・環境. みらい, 2020, 118.

